

株式会社ミュージックバード 第60回番組審議会議事録

1. 開催日時 平成25年12月4日(水) 15時00分～16時30分

2. 開催場所 TOKYO FM 10階 大会議室

3. 出席者

◆番組審議会委員

- ・矢内 廣 委員長
 - ・松尾 修吾 副委員長
 - ・福本 ゆみ 委員
 - ・中西 健夫 委員
 - ・村井 裕弥 委員
- (ご欠席：佐野光徳 委員)

◆放送局

- ・一瀬 社長
- ・江川 常務
- ・雄谷 常務
- ・江森 技師長
- ・関田 監査役
- ・岩崎 プロデューサー
- ・田中 プロデューサー
- ・事務局 高木

4. 議事概要

今回は、cross culture チャンネルの新番組「diskunion presents 映画音楽への訪問者」(10月19日<土>14:00-15:00 出演：菊田有一)について審議が行われた。

- ・当番組は、首都圏を中心にマニア路線を続けているレコードショップ「diskunion」と、同じく音楽マニア向けに放送を続ける当社が協力することで「マニアに刺さる」番組を作りたいというところから始まった。映画音楽や、映画のポスターなどを大量にコレクションしている、同社専務の菊田氏が登場、氏の膨大なコレクションから名サントラ・名曲やそのカバー曲を紹介し、映画の陰の立役者である映画音楽にスポットを当てている。当社は基本的にクラシック・ジャズに重点を置いてきたが、それ以外の音楽に対する顧客の要望も目立ってきている。この番組のような、上質な選曲番組を積み上げていくことでも、「ミュージックバードらしさ」を発揮していきたいと考えている。

ということが放送局側から説明され、これに対して委員からは、

- ・あまりトークが無く音楽を回すスタイルということだが、映画好きならば曲を聞いたら、シーンが思い浮かぶ。その視点から言ったら、映画についてのトークがあった方が、さらに面白くなるのではないか。
- ・今後、マニア向けに続けていくのか、ライトユーザーを取り込むのか、はっきりとすべきだ。この番組はライトユーザーが好む内容だが、実際は聴ける状況にない。先日のポール・マッカートニーやタイガースのライブなど、60代が音楽シーンに戻ってきている状況をヒントに、コンテンツ開発をしていくべき。

等の意見・助言があった。局からは

- ・言葉は共感性をさらに増幅するので、トークが入ると確かに、だいぶ違うと思う。ぜひ検討したい。また、ライトユーザー向けのプロモーションについては、サービス加入時の煩雑さ、複雑さを少しでも軽減する方法の模索と合わせ、今後研究していきたい。

との考えが説明された。